

阪神・淡路大震災と外国人

- 死者6.434人、負傷者43,792人
- 被災地に外国人8万人
- ・ 言葉の壁に直面した 3 万人
 - *地震?避難所?罹災証明?
 - * ガスタンクに亀裂も届かぬ避難勧告
 - * 自衛隊を見てクーデターと錯覚
- さらには心の溝、制度の壁も
 - *流言飛語、噂、デマ
 - *"火事だ!外国人が火をつけた" でも、すぐにデマは消失



関東大震災の記憶から

- 在日コリアンの頭をよぎる虐殺の記憶
 - *デマ、流言飛語を止めねば、、、
- ・同胞だけの支援でなく民族を越えて
- *すべての被災者に炊き出し、救援物資の配布
- ・より厳しい境遇のマイノリティへの気づき
 - *ベトナム系など他のマイノリティの支援も



FM放送(無認可)を開始(韓国・朝鮮語と日本語)

日本人も一緒に活動

FMわいわいの誕生

1993年

12月 FMサラン放送開始 (by 生野区の在日コミュニティ) 1995年

1/17 阪神淡路震災

1/30 FMヨボセヨ放送開始 (by 民団西神戸支部)

4/16 FMユーメン放送開始 (by 被災ペトナム人救援連絡会)

7/17 ヨボセヨとユーメンが合体しFMわいわいに

1996年

1/17 FMわいわいがコミュニティ放送局の認可取得

被災外国人の救援活動

- 母語による情報提供 ラジオ放送など
- ・電話相談窓口の設置(母語対応)
- ・避難所などでの直接支援
- ・行政との交渉

その一部としてラジオを使って活動

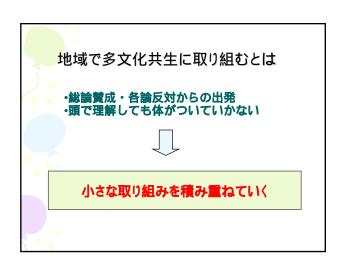
- 情報提供
- 心の癒し
- · 行政やNGOの活動をモニター
- ・表現の場
- ・偏見を除去

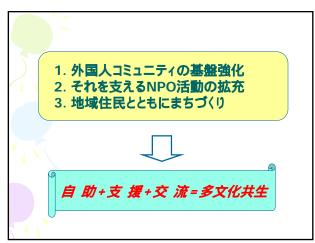
震災1年後に海賊放送はコミュニティ放送局に その頃の **FMわいわい**とは?



- ・ 外 国 人:ついに認められた!という期待
- ・ メディア: 震災後の多民族共生のシンボル
- 行政:協働とコミュニティ放送のショールーム
- ・ 日 本人:良いことだが、まだピンとこない

多文化共生のまちづくり





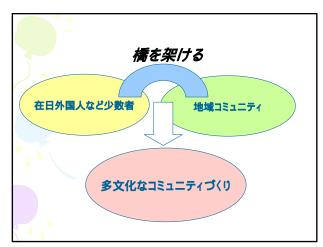


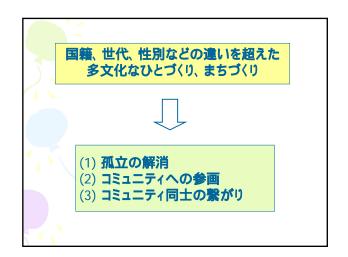


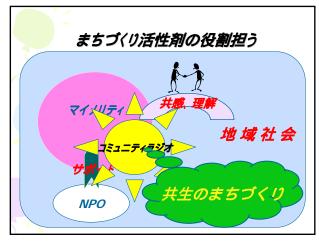


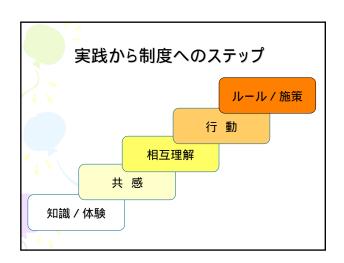


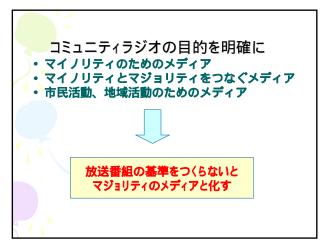




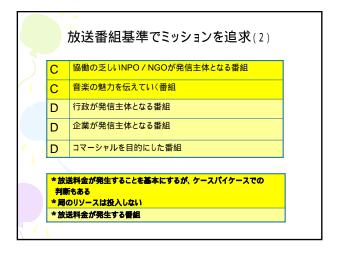








放送番組基準でミッションを追求(1) A 在日外国人が発信主体となる番組 A マイノリティが発信主体となる番組 A 外国語およびやさしい日本語による情報提供番組 A 人権擁護を目的にした番組 A 文化の多様性(=多文化)を伝えてい(番組 B 協働しているNPO/NGOガ発信主体となる番組 B 長田・神戸の青少年の育成に資する番組 B 長田・神戸の青少年の育成に資する番組 B 長田・神戸の情報・文化を発信してい(番組











コミュニティラジオとは?

- コミュニティの所有
- コミュニティによる運営
- コミュニティからの参加
- 商業的な利益を目的としない

周縁化、不可視化されている住民









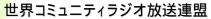














- *世界115カ国·地域、4,000を超えるコミュニティラジオ局が参加 している国際NGO
- *国際的な協力のもとにコミュニティと市民参加型ラジオの発展に寄与
- * 1983年に設立。カナダ・モントリオールに国際事務局
- *地域別にユニット。2005年にアジア太平洋」始動
- *2007年日本の窓口をFMわいわい内に設置









まとめ

- ・ 震災から見えた日常
- コミュニティづくりこそ減災
- ・不可視化、周縁化されている住民の声
- ・ 地域を越えて、 国境を越えて連帯
- コミュニティラジオはまちづくりの道具

